「社会人1年目で学んだこと」

●司会
合六 平（加古川はぐるまの家 就労継続支援B型、入社して累計6年）
●対談者
豊田伊吹（加古川はぐるまの家　就労継続支援B型、入社1年）
山本悠太（加古川はぐるまの家　就労継続支援B型、入社1年）

今回は、入社して1年が経過する就業支援部の職員2人に、日頃の仕事のこと、休日の楽しみなど、お話してもらいました。日々、成長中の若手職員の声を紹介させていただきます。

同期入社の2人、お互いの印象は？

山本　お互い、利用者さんを担当することになり豊田さんは利用者さんのことをよく気に掛けていると思います。

　軽作業をしている時に、意外と手先が不器用だと知りました（笑）。

豊田　反対に、山本さんはすごく器用、一緒に作業をしていて自分は全然進まないのに、山本さんは速くて驚きました。

　お互い作業班は違うけれど、担当の利用者さんのことなど、日々、共有しています。

合六　豊田さんは慎重、考え過ぎて進まないところがあると思う。

豊田　そうなんです。ミスが出ないための確認が多くなってしまって…、その分、数字のミスは少ないんですが…。

これまで、障害のある方との関わりは？

山本　学生の頃から、障害のある友達も周りにいたので馴染みがありました。

豊田　大学生の頃、グループホームの世話人のアルバイトをしていました。料理、洗濯、掃除などの家事を担当していて、「ご飯が美味しかった」とか言ってもらうと嬉しかったです。

入社するきっかけは？

山本　障害のある方の就労支援に興味がありました。就労継続A型、B型にいくつか見学に行って、はぐるまの家はしっかり働いているところがいいと思いました。

豊田　以前、兄が特別支援学校の先生をしていたことがきっかけです。子どもの頃、学校は守ってくれる場所だけど、大人になると自分で生きていかないといけない、それを支援したいと思いました。いろんな人から、「はぐるまは厳しいよ、でもいいよ」と言われ、入社することに決めました。

合六　2人とも、しっかり考えて選んで偉いね～（笑）。

　僕は、障害者施設ってもっと暗いイメージがあったけれど、実際に来てみて、すごく明るい印象で驚いたことを覚えているかな。

働いて1年、考え方など何か自分の中の変化はある？

豊田　失礼な言い方ですけど、利用者さんってもっと仕事ができないと思っていました。でも、実際、一緒に働く中で、僕より全然できるし、利用者さんの力ってすごいと思うようになりました。作業中、どうしたらそんなに速くできるのかな～、どうやってしているのかな～と横で見てしまいます。

山本　働く施設なので、働きたい人だけが来ているのかと思っていたけれど、そうではなくて、これから一緒に頑張って「働く人」になっていく人も利用していると感じました。

実際に働いてみて、加古川はぐるま福祉会の印象は？

豊田　周りの先輩職員はみんなすごく仕事ができると思うし、何より利用者さんのことを一番に思っているのをすごく感じます。

山本　仕事の中に楽しさ、やりがいがあって、はぐるまに就職できて良かったと思っています。

色んな作業をしてみて

豊田　初めは、簡単な作業ばかりだと思っていましたが、デスクマットを巻いていく仕事や車部品を組み立てる仕事は細かく、難しくて色々仕事がある中で、それを利用者さんが淡々とこなすので作業力の高さに驚かされました。

山本　色々な作業がある中で、どの作業がその人がしやすいのか、利用者さんの特徴や特性を理解していないと上手くいかないと思いました。

上司の印象は？

豊田　個別支援会議に出た時に、利用者さんのことにすごく詳しくて驚きました。例えばロッカーでの様子とかも知っていて、忙しいのにいつ見たんだろう、目配りがすごいと思いました。

山本　伝え方がすごく上手、職員に対しても利用者さんに対しても、失敗した時に怒るより的確に教えてくれる。遠い存在ではなくて、近い距離で接してくれるのでありがたいです。

先輩からのアドバイス、時には厳しいこともあるけれど、特に心に響いたことは？

山本　在庫管理、作業の流し方、納期とかすることはいろいろあるけれど、「すべて利用者さんが働き、輝くためのもの」と言われて納得しました。

豊田　毎日作業量の目標を立てるけれど、必ず目標達成するための工夫や取り組みがあると言われたことが印象に残っています。「目標達成できませんでした」と言うことがないように、しっかり準備をして、日々作業を流せるように頑張ろうと思いました。

正直なところ、仕事はしんどい？

豊田　まだ1年目、ギリ耐えています…（笑）。でも利用者さんが仕事ができるようになったときとか、伝わった時は嬉しいです。

山本　しんどさはもちろんありますが、同時に楽しさもあるので頑張れています。同じ利用者さんを見ていて、何かできるようになったり、変化を感じた時に嬉しいです。

合六　僕もしんどいです（即答）。でもしんどさの中にも楽しさがあって…基本的に人と関わることは苦手だけど、年数を重ねて、やっぱり純粋に楽しいな～と思うようになりました。

困っていることは？

山本　寝ても疲れがとれなくて困っています（笑）。

合六　僕も困っていることばかりです。人前で話すことも苦手だし…。

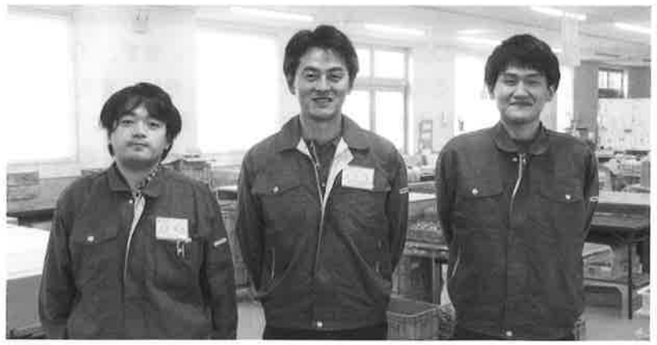
豊田　僕も人前で話すことが苦手です。それから利用者さんを初めて担当することになって、何から始めればいいのかわからない、漠然とした不安があります。面談が円滑に進められるかも心配です。

合六　面談では、本人、家族にわかりやすく伝えることが大事。そのために、日々しっかり利用者さんを見て、知って、分析して、取り組んで、振り返って…が大事。学校で学んだ知識よりも、いかに目の前の人に興味を持てるか、実践の中で勉強していくかが重要です。

休日の過ごし方は？

山本　釣りに出掛けることが多いです。冬場は水温が低く、魚が活発に動いていなくて、食い付きが良くなかったので、暖かくなるゴールデンウィーク頃からが楽しみです。ちょっとルアーもやってみたいなと思って、ルアーも練習中です。それ以外は、オンラインゲームをしたり、YouTubeで釣りの動画を見たりしています。

豊田　休日は、友達とフットサルをしたり、家でサッカーや野球観戦、マンガ、YouTubeを見たりしています。サッカーも野球も、するのも、見るのも好きです。サッカーは海外リーグを見るのが好きで、最初は夜中に無理して見ていたんですけど、やっぱりしんどくて、最近は見逃し配信で見ています（笑）。あとは、ボードゲームにもハマっています。



写真左から山本さん、合六さん、豊田さん

合六　日曜の夜、憂鬱になったりする？

（2人）（即答で）なります！

今後はこんな風になりたい、目標は？5年後の自分は？

豊田　利用者さんに「仕事って楽しい」と思ってもらいたいです。利用者さんにも先輩職員さんにも頼られるたくましい支援員になりたいです。

山本　はぐるまの家で満足してほしくない、訓練をして自信をつけて、会社で働くことを目指してほしいです。今よりも支援員としても社会人としても成長していたいです。

今後の意気込みをどうぞ！

豊田　早く先輩に追いつけるようになりたい。利用者さんからも、職員からも、頼られる存在になれるように頑張ります！

山本　利用者さんを担当させてもらうようになったので、しっかり様子を見ていきたいです。

◇　◇

　最後に座談会を終えて、司会の合六さんから2人へメッセージをいただきました。

　お二人と同様、自分も大学卒業後、社会人のスタートをはぐるま福祉会で切り、途中離れた期間も含めると、働きだして早20年が過ぎました。5年後、10年後と見据えて…というよりも、まずこの1年、この1年と思い、気が付けばこの年数になったように思います。公私ともに楽しさ、辛さもありましたが、たくさんの「人との出会い」が今の自分に繋がっていると感じています。お二人もこれから、たくさんある「出会い」の一つ一つを大切にしていってもらえたらと思います。